

人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育

教育いちかわ



市川市教育振興基本計画

～次のような目標を掲げています～

子どもの姿 自分や他人を大切にし、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てる

家庭・学校・地域の姿 自らの役割と責任を担いながら、たがいに連携して教育の向上に取り組む家庭・学校・地域を実現する

市川の教育の姿 教育環境の整備を図り、質の高い市川の教育を推進する

■発行
市川市教育委員会
〒272-8501
市川市八幡1-1-1
TEL 334-1111

■企画編集
市川市教育センター
〒272-0015
市川市鬼高1-1-4
TEL 320-3335

「つなぐ教育」の着実な成果 ～市川市教育振興基本計画点検及び評価の結果から～

市川市教育委員会では、平成21年3月に「市川市教育振興基本計画」を策定し、「人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育」をキーワードに、家庭・学校・地域・行政が連携協力して一人一人の個性や能力の伸長をめざす教育を推進しています。一方で、子どもたちの成長の様子や教育委員会の取り組みの状況などを把握するために、毎年、児童生徒・教職員・保護者対象のアンケート調査等を実施し、外部の有識者の意見等も参考にしながら事業や取り組みの点検評価を行い、改善を図っています。

子どもたちの成長を実感

平成21年度と平成23年度の児童生徒アンケート(小学校5年生・中学校2年生対象)の結果を比較すると、多くの項目で向上が見られました。

「勉強が楽しい」「授業がわかる」については、各学校のきめ細かな学習指導や中学校ブロック単位での学力向上を意識した授業改善の取り組みによる成果であると考えられます。また、「読書が好き」についても各学校図書館を中心とした取り組みによる成果であると考えます。

一方、「命あるものを大切にする」など「豊かな心」が育まれている背景には、学校における指導の充実に加えて、家庭や地域の教育環境の向上が大きく関係していると推察できます。他にも、「環境を大切にする行動」でも明らかな結果の向上が見られます。

このような子どもたちの成長の姿は、市川の教育の柱である「つなぐ教育」、つまり、家庭・学校・地域・行政との連携が結実した

市川市教育振興基本計画 児童生徒アンケート(一部抜粋)
対象：小学校5年生及び中学校2年生

※数値は「はい」「どちらかといえば、はい」と答えた割合

調査項目	H21年	H23年
学校の勉強は楽しいですか	66%	70%
学校の授業の内容は良くわかりますか	79%	82%
読書は好きですか	77%	81%
身近な動物や植物など命あるものを大切にしていますか	94%	95%
ごみの分別やリサイクル、節電など、環境を考えた行動をしていますか	74%	80%

大きな成果であると考えています。今後も「基本計画」に位置づけられた教育施策のさらなる推進を図り、子どもたち一人一人の学びや成長をより一層支えることのできる、質の高い「市川の教育」の実現を目指します。

【教育政策課】

11月20日、葛南教育事務所管内「学力向上交流会」(※)が、市川市を含めた近隣五市から300人以上の先生たちが参加して、高谷中学校・信篤小学校を会場にして行われました。

千葉県教育委員会 学力向上交流会 幼小中高の連携で「教育の接続化」を



市川南高・星野先生の理科の授業



分科会で意見交換する参加者

「交流会」では、高等学校の先生が小学生の国語や中学生の理科を指導したり、小学校と中学校の先生が連携して小学生の外国語活動を指導したりするなど、高谷中ブロックが進めてきた「教育の接続化」を意識した公開授業が各教科で展開されました。

公開授業・全体会の後、12の分科会が行われ、幼・小の連携、小・中の連携などについて活発に議論が交わされました。参加者にとっては、授業参観や情報交換を通して、今後の授業づくりなどに役立つ交流会となりました。【教育センター】

(他市参加者の声)

◆異校種間交流の企画立案が大変だと考えていたが、市川市のように無理なく続ける、という姿勢はとても大事である。

◆市川市のように実践することで、職員同士が顔見知りになる。それが、入学前だけでなく入学後も連携していける一歩だと思う。

※ 学力向上交流会＝千葉県学力向上施策の中心である「ちばっ子『学力向上』総合プラン」事業のひとつで、児童生徒の学力向上に向けた取り組みの成果や課題について、教員同士が協議すること等を通じて授業力の向上を目的に実施するものです。

受賞者(敬称略)

氏名	役職名等
伊藤 恵津子	市川市立大洲中学校 校長
山崎 繁	市川市立鬼高小学校 校長
菅澤 龍之助	市川市立第三中学校 校長
勝又 達彦	市川市立幸小学校 校長
八重樫 茂	市川市立鶴指小学校 校長
西 清見	市川市立信篤小学校 事務長
大谷 朋子	市川市立国分小学校 教諭
鈴木 ふさ江	市川市立市川小学校 教諭
坂井 隆之	市川市立二俣幼稚園・信篤幼稚園 学校医
川野 真司	前市川市立大野小学校 学校歯科医 市川市歯科医師会 副議長
恩田 英夫	市川市立二俣小学校・二俣幼稚園 学校薬剤師
齋藤 匠	前市川市PTA連絡協議会会長
第八中ブロック学校支援 コーディネーターズ	代表 角谷 好枝

市川市教育功労者

〔個人の部〕 市川市立第二中学校 校長 松永 潤
市川市立第六中学校 校長 西川 裕二郎
〔団体の部〕 市川市立中山小学校 校長

千葉県教育功労者

教育功労者表彰は、教育・学術または文化の振興などに関し、特に功績が顕著であった個人または団体に与えられるもので、今年度は次の方々が表彰されました。【教育政策課・教育センター】



学校種を超えて「つながる」先生たち - 2年目教員研修 -

「教育の接続化」は教員の研修でも進められています。

10月2日、2年目教員を対象としたフォローアップ研修があり、信篤幼稚園・信篤小学校・二俣小学校・第六中学校・高谷中学校・市川昂高校・市川南高校・明海中学校(浦安市)・県立市川特別支援学校の教員総勢19名が、お互いの学校を参観し、その後、意見交換を行いました。

市川南高校・大嶋校長からは「地域の中で、異校種の先生方が出会えることは意義があります。今日は子どもの発達段階順に参観していただきます。それぞれの環境・授業を

見ることで、自分の課題を見つけてください」と話がありました。

信篤幼稚園では、園児との触れ合いに参加者の顔もほころんでいました。信篤小・高谷中・市川南高と授業参観は進み、最後の県立特別支援学校で、各教室や染め物班や木工班などの作業を参観した後、意見交換会を行い、一日の研修は終わりました。

参加者は、それぞれの校種の授業参観を通して驚いたり参考にしたりと、たくさんのことを学び取ったようです。意見交換会では、教育の連続性の大切さについて意見が交わされました。【教育センター】



【意見交換会から】

- ◆ 普段の活動の様子がわかって勉強になりました。特に掲示物の違いに驚きました。
- ◆ 子どもたちの成長の過程がわかりました。
- ◆ 教師の、子どもたちへの接し方の違いについて考えさせられました。

個性あふれる作品が

こども作品展・新聞展

11月7日～11日、市川市文化会館で市川市こども作品展・新聞展が開催されました。5日間の来場者数は1万330人で、特に土日には多くの家族連れが訪れ、この作品展に対する市民の関心の高さがうかがえました。

子どもたちの作品は個性にあふれており、「自分の作品づくりの参考になりました」(小・中学生)、「子どもたちの作品を見て、自分の創作意欲をかきたてられました」(保護者)など、うれしいご意見を多数いただきました。

今年度は、「ガーデニング・シティ いちかわ」の取り組みを受けて、学校園を撮影した写真も出品され、子どもたちや保護者はもちろん、地域の方々も多く訪れ、長い時間をかけて見学していました。

皆様からいただいた貴重なご意見をもとに、来年度も素晴らしい作品展にしたいと考えています。【指導課】



日々の学習の成果を発表

市内の小・中学校特別支援学級の児童生徒による合同学習発表会が開催され、各学級の日頃の学習の成果が発表されました。特別支援学級が増加したこと、より地域に根付いた発表会となることを目指して、今年度初めて2会場での開催となりました。

合同学習発表会 11/10 市川市市民会館(北部) 12/1 行徳文化ホールI&II(南部)

ホールに入った子どもたちの中には、慣れない大きな会場に戸惑う様子も見られましたが、いざ発表が始まると見事にそれぞれの役になりきって、笑顔いっぱい発表したり、他の学級の演技に応援の拍手をしたりしていました。

今年度は、生徒会と共同で進めた研究報告をパワーポイントを活用して発表するなど、各学校での日々の学習の様子が伝わってくる、工夫された発表会となりました。

また、中学校の特別支援学級で制作した作業製品の頒布では、多くの方が製品を見たり購入したりしていました。

合同学習発表会が、特別支援教育の取り組みや、特別支援学級の子どもたちの様子について知っていただく機会として、広く地域の方々に親しまれる行事となることを期待しています。【指導課】



◆◇ 教育委員と児童生徒との交流会 ◇◇



塩浜中(10/31)

「しっとりとしたとてもよい雰囲気ですね。指導が一人一人に行き届いていることがわかります。生徒会の皆さんはしっかりとした考えを持っていて、素晴らしいです」

(教育委員)

「6年生はどの学級も男女仲よく生活していることがわかりました。委員会や部活動などに意欲的に取り組んでいる子どもたちですね。学校のリーダーらしくしっかりしていました」

(教育委員)



南行徳小(11/21)



高谷中(11/26)

「小学校6年生からの1年間で、こんなに成長するんですね。生徒会の皆さんには、全校の先頭に立ってさらによい学校にしてほしいと思います」

(教育委員) 【教育政策課・教育センター】

心温まる交流がどの会場でも

12月6日、第二中学校では、お年寄りとの絆を深めお年寄りを幸せ(笑顔)にするため、「メイク・ハッピースマイル・コンテスト」(お年寄りとの交流会)を開催し、70名を超える地域のお年寄りを招待しました。

懐かしい遊び・ダンス・合唱・劇など、全学級がそれぞれ考えた「出し物」でお年寄りへのおもてなしが行われ、どの会場も笑顔や笑いに包まれていました。二中生の、お年寄りに対する心配りが随所で見られるなど、子どもたちにとっても心の成長の場となりました。子どもたちの姿に感激して、校歌を二中生とともに合唱するお年寄りもいました。

お年寄りの皆さんも二中生たちも、素晴らしい笑顔で心温まるひと時を過ごしました。

【教育センター】



はははは!

おめでとう 153名の受講生!

地域の青少年リーダーの育成と子どもの健全育成を目的とした指導者育成講座「わんぱくセミナー」「ジュニアリーダー講習会」「ヤングカルチャースクール」が11月に閉講し、総勢153名の受講生が立派に講習を修了しました。【青少年育成課】



未来の青少年リーダーへ

わんぱくセミナーの最終回では、受講生はドッジボールやレクリエーションゲームなどで体を動かし、ここぞとばかりに中学・高校・大学の青少年リーダーと最後の時間を楽しんでいました。閉講式では、一年間やりきったという満足そうな笑顔が見られました。



ジュニアリーダー講習会・ヤングカルチャースクールの最終回では、中学生と高校生に分かれて『青少年団体のボランティア活動を考える』というテーマで講義を受けました。グループで真剣かつ活発

に意見を交わし、積極的に取り組んでいる姿は、初回の講習とは見違える姿に!

受講生にとって実りのある講習会になりました。

受講生の笑顔と活気が満ち溢れていたこの一年、楽しい活動には思いっきり生き生きと、真剣な活動には粘り強く全力で取り組む姿が印象的でした。

今年度参加し、修了した153名の未来の青少年リーダーたち、おめでとう!! 青少年リーダーとして地域活動で活躍してくれることを心から期待しています。

【わんぱくセミナー】

小学5・6年生を対象とし、あそびや野外活動を中心に集団行動・生活の基本を身につける初級講座(宿泊を含め全5回)

【ジュニアリーダー講習会】

中学生を対象とし、グループワーク・野外活動を中心にリーダーシップ力を向上させる中級講座(宿泊を含め全7回)

【ヤングカルチャースクール】

高校生を対象とし、あそびや野外活動で小・中学生を指導する中で、青少年リーダーとしての心構えや責任感といった心を育て、さらに指導技術も磨く上級講座(宿泊を含め全7回)

【受講生の感想】

- みんなで料理を考えたり時にはけんかもしたり、とても楽しかったです。リーダーさんも、わからないことがあったらやさしく教えてくれたり、一緒に遊んでくれたりしました。中学校に入ったらリーダーとしてやってみたいです。(わんぱく)
- 小学生と触れ合うことで、自分に足りない所がたくさん見つかりました。私達の前で堂々とゲームや歌などを教えてくれる高校生・大学生の先輩方や大人の人を尊敬します。いつか私もそのようなリーダーになれるように、一生懸命頑張りたいです。(ジュニア)
- 班員と対立してしまい、今まで経験したことのない立場になってしまいました。この失敗をバネにしたいと思います。(ヤング)

世界で活躍する選手から学ぶ 「大切なのは続けること」

一流のスポーツ選手の言葉には重みがあります。

昨夏のロンドンオリンピックフェンシング男子フルーレ団体で銀メダルを獲得した三宅諒選手(市川市市民栄誉賞)は、「広報いちかわ」(10/6発行)でのインタビュー記事で「試合までにどれだけ備えたか、が大切です。競技の本質を楽しんで、自分の長所を発見して、続けていくことが大切です」など、市川の子どもたちに勇気を与えてくれました。

10月18日、大洲中学校では、WBA世界スーパーフェザー級チャンピオン・内山高志選手を招いて、ブロック講演会を行いました。同中学校全学年・大洲小・宮田小6年生が参加し、現役の世界チャンピオンの話に熱心に耳を傾けました。

内山選手は「ボクシング界は、100人のうち1人しか生き残れない厳しい世界です。なぜこんなに努力したのかというと、オリンピック予選で負けた悔しさがあったからです。それがあったからこそ世界チャンピオンになれたと思います」「常に努力をすることが強い気持ちを作ります。最後には、練習量と負けたくないという気持ちが大切です」。

「皆さんも目標を見つけて頑張ってください。将来の目標に向かって、やりたいことがあったらすぐに行動に移してほしいです。時間は限られていますが、誰にでもチャンスはあります。壁にぶつかる時は必ずありますが、好きなことならあきらめずに続けてください」と、目標を持ち、あきらめずにがんばることの大切さを、子どもたちに熱く語りかけていました。

内山選手は、大晦日のタイトルマッチで、みごと6度目の防衛を果たしました。

【教育センター】



講演する内山高志選手=大洲中学校で

本物の昔がよみがえる 学校巡回展

考古・歴史博物館は、市内から出土した遺物や収蔵の古文書(こもんじょ)や生活道具等の実物資料を持って学校を訪ねる、学校巡回展を行っています。

考古博物館では、宮久保小学校に出向いて、同校で工事中に見つかったたくさんの貝殻をもとに、『大昔、宮久保小は海だった』という展示・解説と周辺の見学会を行いました。

歴史博物館では、福栄中学校2年生の歴史学習で、江戸時代の貴重な古地図や古文書を使って地域の歴史を読み解きました。また、体験学習に訪れた行徳小学校や百合台小学校3年生には、後日学校を訪れて、塩作り・海苔作り・わら細工等のさらに詳しい解説や体験などを実施しました。子どもたちは、用意した海水からとり出した塩を見たり、わらで正月の輪飾り作りに挑戦したりして、歓声を上げながら貴重な体験を楽しんでいました。

こうした事例は、これまで行ってきた博物館での体験学習と学芸員の学校での展示・解説とがうまくかみ合った好例で、博物館資料の特徴や魅力がよく引き出されていて、教科書では学べない歴史の面白さをつむぎだしています。

【考古・歴史博物館】



行徳の絵地図を広げる中学生



海水を煮詰めて塩をとる

「あそび」を通して 子どもたちを育む コミュニティクラブ

第六中ブロックコミュニティクラブ 火起こし・焼き芋体験

11月25日に稲荷木小で、第六中ブロックコミュニティクラブ「火起こし・焼き芋体験」が開催されました。

当日は、およそ90人の参加者が集まり、開催に際しては、考古博物館学芸員や火起こしボランティアの方々にご協力をいただきました。

まずは、火起こしボランティアの方の指導を受けながら、実際に色々な火起こし体験をしました。途中で掌が痛くなったり、煙に咳き込んでしまったりする子どももいました。しかし、苦勞の末に炎が上がると、大きな歓声と拍手が沸き起こりました。

そこで起こした火を種火にして、次は「焼き芋」と「土器を使ったアサリ汁」作りです。アサリ汁は、調味料は一切使わずに作りましたが、子どもたちからは「思ったよりしっかり味

がする」「身にしみる味でした」という感想が聞かれました。

焼き芋作りは、火の回りが悪く、時間がかかりましたが、子どもたちは「ほくほくして甘い」「すごく香ばしい」と大喜びでした。保護者からは「家では焚き火ができないので、このような企画は非常にありがたい」という感謝の言葉がありました。子どもたちにとっては「自分達の起こした火で作ったものを自分の舌で味わう」という、体全部を使った充実した体験になりました。

コミュニティクラブでは、今回紹介した活動のほかにも、子どもたちや親子で楽しむことができる活動をたくさん行っています。各コミュニティクラブの活動は、市川市のホームページや市内の小中学校・公民館・図書館に掲示されている「あそびの情報」で確認できます。多くの方のご参加をお待ちしています。【地域教育課】

コミュニティクラブとは

コミュニティクラブは、所属している登録ボランティアが企画する「あそび」を通して、子どもたちを育むことを目的とした団体です。市内16ブロック(中学校区)に分かれて、学校や公民館等を使用して活動しています。

一部の活動を除いて、自分の通学する学校や住む地域に関係なく、どのコミュニティクラブの活動にも参加することができます(事前申込が必要な場合があります)。今回は、その活動の一部をご紹介します。



コミュニティクラブ ボランティア大募集

各コミュニティクラブでは、「あそび」の企画と一緒にしてくれる登録ボランティアや、行事ごとに子どもたちのリーダーとして活躍してくれる中・高校生や大学生のボランティアを募集しています。興味のある方は、地域教育課までお問い合わせください。TEL047-334-1659(直通)

学習支援クラブを活用して 中山小学校「全校ふれあい道徳」

学習支援クラブ事業は、「開かれた教育を推進し、子どもたちに夢や感動を与え、生きる力を育む」ことを目的として実施されています。

中山小では、平成21年度から毎年、学習支援クラブを活用して「全校ふれあい道徳」を行っています。この取り組みの目的は、「様々な人と触れ合うことで、豊かな心の育成を図ること」「地域の方々との交流を深めること」です。そのために、夢を持つこと、地域を愛すること、感謝の心を持つこと、差別をしないこと、平和を守ること、などの内容で、地域の方を講師としてお招きし、全校で話をしています。



自然博物館長による「命のつながり」の授業

今年度は、6月27日に、特別支援学級を含めた全22学級に講師の方々をお招きしました。内容は、読み聞かせの会の方による絵本の読み聞かせ、民生委員の方による「子どもの頃の遊び」、自然博物館館長による「命のつながり～自然における昆虫の役割～」、人権擁護委員の方による「人権・いじめについて」、キャラバン隊「空」の皆さんによる「障害の体験・障害があるってどんなこと」、市川被爆者の会の方による「被爆体験談」など、多岐にわたるものでした。

講師へのお礼の手紙には、「友達と仲よくすることのよさを教えてくれてありがとうございました」など、子どもたちが学んだことが表されていました。その後、生活科の町探検で子どもたちが講師のもとを訪れるなど、「中山っ子」と地域との交流が一層深まっていました。【指導課】

大切な音楽体験の場

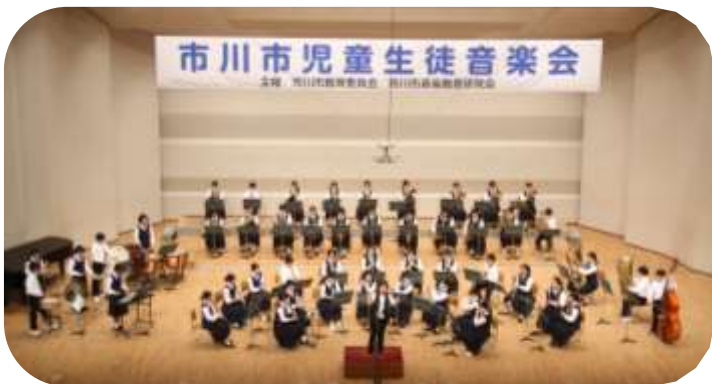
市川市児童生徒音楽会

「第67回 市川市児童生徒音楽会」が11月8日、9日、市川市文化会館で市内の小・中・特別支援学校56校4,846人の児童生徒が参加して開催されました。

学年・クラス合唱に加え、吹奏楽部・管弦楽部の演奏など、日頃の練習の成果が披露されていました。また、2日間で2,600人を超える方々が来場し、「演奏を聴いて胸が熱くなり、子どもたちから元気をもらいました」「子どもたちの澄んだ声、目の輝き、素晴らしい演奏を聴いてよい一日を過ごしました」など、児童生徒に励みとなるような感想を多くいただきました。

招待演奏では、市内中学校でも指導経験のある江川良子さんを中心とした女性サクソフォングループ「Athena(アテナ)」による演奏が行われました。子どもたちも聴いたことのある曲が中心のプログラムで、華やかな音色と躍動感あふれる演奏に、子どもたちも聴き入っていました。

市川市文化会館のような本格的なホールで演奏したりプロの演奏を聴いたりする機会は、子どもたちにとって大切な音楽体験の場となっています。この体験が各学校における音楽活動の充実につながっていくことを願っています。【指導課】



収穫の喜びを分かち合う！ ～市川米っ人くらぶ～

稲作体験事業「市川米っ人くらぶ」の収穫感謝祭が、青空の下、少年自然の家で盛大に開催されました(11/10)。

当日は多くの参加者が集まり、収穫したお米でお雑煮やカレーライスなどを作り、これまでの労をねぎらいながら、収穫の喜びを分かち合いました。【地域教育課】



餅つきを楽しむ子どもたち